

▶▶中期事業計画

Growth Roadmap for 2020 & Beyond

▶ 2020年 主要指標・目指す姿

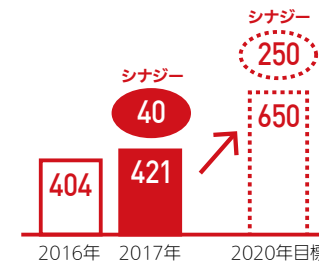
主要指標	売上高成長	金額シェア	トランザクション	EBITDAマージン	ROE (自己資本当期純利益率)
目指す姿	売上高年平均成長率 +1.8% (2016年~2020年)	販売数量シェア以上の金額シェア拡大	即時消費パッケージ成長	EBITDAマージン 10%以上	ROE 6%以上

トピックス

▶ シナジーの創出

2017年は、シナジーとして40億円のコスト削減効果を実現したことなどから、プロフォーマ営業利益は421億円(前年同期比4%増)となりました。また、売上高の5%である499億円の投資を行いました。持続的な成長と2020年までの目標である250億円のシナジー創出に向けた取り組みは順調に進捗しています。

●プロフォーマ営業利益(単位:億円)

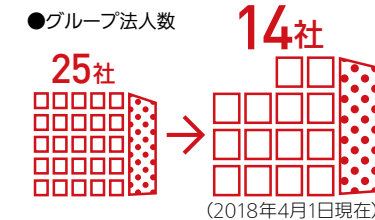


分野	主な施策
サプライチェーン	●ネットワークの最適化 ●拠点立地と輸送ルートの最適化 ●製造効率改善
調達	●内製化率の向上 ●サプライヤーとの価格交渉
営業	●PTC ^{※1} 標準化 ●RTM ^{※2} 最適化 ●ベンディングの提供コスト見直し ●成功事例の共有
間接部門	●統合ビジネスサポート機能を設置 ●情報システムをCoke One+に統合

※1 適切な価格(取引納価)および取引条件 (Price, Terms and Conditions)
※2 Route-to-market

▶ 当社グループにおける組織再編の実施

当社グループは「ひとつの会社・ひとつの経営」を目指し、スピード感を持って組織や事業の統合を進めてきました。これをさらに推し進め、さらなる成長を実現すべく、2018年1月1日付で当社グループにおける組織再編を実施しました。これにより、当社の商号は「コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社」となり、グループ法人数は統合初日の25社から14社へ減少しました。



▶ 配当方針の明確化

配当については、積極的な利益還元を行うことを利益配分に関する基本方針としながら、安定的に配当を行うことを最優先とし、業績や内部留保を総合的に勘案の上、剰余金の配当を実施する方針です。また、IFRS導入後(2019年以降)は、当方針に加えて配当性向30%以上を目安として配当を実施していきます。当社は株主還元を最大化すべく、資本構成や配当性向を定期的に見直し、成長機会に向けた財務戦略の柔軟性を維持しつつ、内部留保金を持続的な成長に向けた投資にも活用し、事業の成長とさらなる企業価値の向上を追求していきます。

▶ 自己株式の取得および公開買付けの実施

中期事業計画に掲げる効率的な資本構成の確立とROE改善に向け、2018年4月に当社の普通株式17,075,239株(発行済株式総数の8.28%)を公開買付けの手法により取得いたしました。

▶ IFRS(国際財務報告基準)に基づく財務情報の開示

2018年期末決算より、IFRSに基づき財務情報を開示してまいります。財務情報の国際的な比較可能性の向上や、開示内容の充実により、株主・投資家のみなさまに対して、有用性の高い情報を提供していきます。

▶ 業績連動型株式報酬制度の導入

業務執行取締役が、株価変動のメリットとリスクを株主のみならずと共有し、中長期的な企業価値向上および株価上昇への貢献意欲を従来以上に高めることを目的として、業績連動型株式報酬制度を導入しました。本制度は、連続する3事業年度における連結ROEおよび連結売上高成長率の業績達成度に応じ、当社株式および金銭を報酬等として支給する業績連動型の株式報酬制度です。なお、当社およびコカ・コーラ ボトラーズジャパンの執行役員に対しても、同様の制度を導入しました。

▶▶2017年のハイライト

▶ 財務・非財務ハイライト

売上高

8,726

億円

主に経営統合の影響により、売上高は8,726億円となりました。なお、プロフォーマベースの売上高は9,916億円です。

営業利益

405

億円

経営統合の影響に加え、有形固定資産の減価償却方法変更や清涼飲料事業におけるコスト削減等により、営業利益は405億円となりました。なお、プロフォーマベースの営業利益は421億円です。

営業利益率

4.7

%

コスト削減の取り組みやシナジーの創出等により、営業利益率は4.7%となりました。なお、プロフォーマベースの営業利益率は4.2%です。

ROE

5.7

%

主に経営統合の影響により、ROEは5.7%となりました。なお、プロフォーマベースのROEは4.2%です。

商圏内人口

112

億 百万人

販売数量

5.2

億ケース

工場数

17

工場

従業員数

17,197

名

製品1L当たり水使用量

3.64

L/L (2016年:3.87L/L)

水源涵養面積

6,583

ha

工場廃棄物のリサイクル率

99.94

%

▶▶2017年のハイライト

▶ 経営統合関連ハイライト

<p>▶ コカ・コーラウエストおよびコカ・コーライーストジャパンの株主総会にて経営統合承認</p>	1月	
<p>▶ ベンディング戦略プロジェクト始動</p> 	2月	<p>▶ コカ・コーラ ボトラーズジャパン発足</p> 
<p>▶ 中期事業計画「Growth Roadmap for 2020 & Beyond」発表</p> 	3月	
	4月	
	5月	
	6月	<p>▶ IT機能を統合 ▶ 調達機能を統合</p>
	7月	
	8月	<p>▶ 各部門の企画機能を統合</p>
<p>▶ キーアカウントマネジメント本部新設</p>	9月	
	10月	<p>▶ 組織再編(事業会社統合等)、持株会社名称変更(2018/1/1付)</p> 
<p>▶ 企業理念「THE ROUTE」策定</p> 	11月	
	12月	<p>▶ 6地域営業本部体制での組織運営をスタート(2018/1/1付)</p>

▶▶ CCBJH(コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス)グループの企業理念

THE ROUTE (ザ・ルート)

私たちのビジネスの原点はルート営業です。お客さま、お得意さまとともにさらなる発展を遂げるために、これまでのさまざまなルートに敬意を表し、無限の可能性を秘めた未来のルートを切り拓いていきます。



ミッション

みんなと地域の日々に、
ハッピーな瞬間と
さわやかさを

コーポレートアイデンティティ

- 地域密着** 私たちは、長年にわたって育んできた、環境や地域社会とのつながりをたいせつにし、共創価値(CSV)を実現していきます
- 顧客起点** 私たちは、常に顧客(お客さまとお得意さま)を中心に考え、顧客から学び、信頼されるパートナーをめざします
- 品格** 私たちは、人権を尊び、規範を重んじ、法令を遵守するとともに、常に高い倫理観を持ち続けます
- ダイバーシティ(多様性/多面性)** 私たちは、社員一人ひとりの人権や個性を尊重し、能力を発揮できる環境を整え、様々な価値観やアイデアを積極的に取り入れます

カルチャー

- 「歴史と伝統」を重んじつつ、「未来」へ前進します
- 人生と仕事に「情熱」を燃やします
- 「倫理」に基づき正しい判断をします
- 自ら考え、「責任」ある行動をします
- 楽しむことを忘れずに「挑戦」し続けます
- 年齢や立場にとらわれず「敬意」をもって行動します
- 「連携」をたいせつにします
- 「シンプル・スピーディー」を追求します

企業理念である「THE ROUTE (ザ・ルート)」に基づいた事業活動を行うため、下記項目において会社運営に関わる基本原則とポリシーを作成し、これらを実現するために当社グループ社員が取るべき行動の指針として倫理・行動規範を定めました。

お客さま、お得意さまをはじめ、すべてのステークホルダーの方々から信頼される企業であり続けるために、私たちはこれらの基本原則、ポリシー、倫理・行動規範にのっとり日々活動していきます。

【基本原則】

環境	コミュニティ
顧客とのコミュニケーション	品質保証
健康	コーポレート・ガバナンス
倫理・コンプライアンス	ダイバーシティ・アンド・インクルージョン
組織マネジメント	人材マネジメント

